

平成28年度保健福祉部業務研究等報告会

「東日本大震災における 子どもの心のケアチーム巡回相談 利用者アンケート」の結果とその考察

- 子ども総合センター 心のケア推進班 主任主査 松村 環
- 精神保健福祉センター 技術副参事兼技術次長 水本 有紀
- 疾病・感染症対策室 難病対策班 技術主査 佐藤 由美

子どもの心のケアチーム巡回相談追跡調査

- 子どものこころのケアチームとは
 - ▣ 多職種で構成されたチーム
 - 児童精神科医，心理士，保健師，教員，保育士など
 - ▣ 被災沿岸市町村の避難所や保健センター等で巡回相談
 - 保護者・子どもからの相談
 - 教員，保育士，保健師等からの相談，事例検討，講話
 - 保護者への講話，座談会
 - ▣ 平成23年3月～平成25年3月まで活動
 - 平成24年度から「こころの相談」と「子育て相談」に分けて実施



震災から5年目を迎えるにあたって追跡調査

調査の目的

- 子どもの心のケアチーム巡回相談を利用した子どもとその家族の現状把握
 - ▣ 巡回相談時の症状は改善しているか
 - ▣ 子どもの生活の様子や環境の変化
- ケアチームの活動に対する利用者の評価
 - ▣ 相談環境やチームの規模、頻度は適切だったか
 - ▣ 相談は役立っていたか
 - ▣ 利用者の感想・意見
- 今後の災害時における子どもの心の緊急支援の在り方について考える一助とする

調査対象・方法・期間

□ 対象

- ▣ 平成23年4月～平成25年3月に「子どもの心のケアチーム巡回相談」を利用した子どもとその家族
- ▣ 168世帯203事例（延べ592事例）のうち、連絡先を把握している132世帯146事例

□ 方法

- ▣ 郵送法
- ▣ 無記名自記式質問紙調査（家族用，子ども用）

□ 期間

- ▣ 平成27年5月から平成28年3月まで

調査内容 ①家族版

- 回答者自身について
 - ▣ 子どもの性別・年齢
 - ▣ 続柄，回答者の年齢，震災当時の住所（市町村）
- 子どもの様子について
 - ▣ 日常生活，集団生活，情緒面・症状等
- 家族や家庭環境について
 - ▣ 住居，家族構成の変化，保護者の転職・失業
 - ▣ 家族の健康状態や情緒等
- ケアチームの活動について
 - ▣ 評価，感想，意見等

調査内容 ②子ども版

- 最近の様子
 - ▣ 日常生活，集団生活，情緒面・症状等
- 困っていることや悩み，心配ごとについて
 - ▣ 困っていること，悩み，心配ごと
 - ▣ 誰かに相談しているか
 - ▣ 誰に相談しているか
 - ▣ 相談していない場合…
 - 誰に相談したいか
 - 子ども総合センターの相談を利用したいか

倫理的配慮

- 得られた回答や個人情報 は 目的外 に 使用しない。
- 回答は本人の意思により拒否できる。
- 回答しなくても本人の不利益にならない。
- 個人情報の取扱いには十分注意し、個人が特定されない形で処理される。
- 調査結果を外部に公表する場合には、公表内容からも個人が特定されないように配慮する。
- 得られた個人情報は子ども総合センターで5年間保管し、その後個人が特定されない形で破棄する。

相談対応

- 子どもの状態について心配がある場合は、希望に応じて児童精神科医による面接相談（原則1回）を利用することができる。
- 面接相談において継続的な治療・支援が必要と判断される場合は、宮城県子ども総合センターの子どもメンタルクリニックや他の支援機関との連携を図る。
- 調査用紙とともに、宮城県が発行した保護者向け小冊子を同封する。

結果

- 回収数：34事例（家族34事例，子ども33事例）
 - 総事例数・・・168世帯203事例（延べ592事例）
 - 連絡先を把握・・・132世帯146事例
 - 郵送できた・・・122世帯134事例
- 回収率：25.4%

表1 調査用紙を配布した地区と対象世帯

	世帯数	児童数
全体	122	134
石巻管内（石巻市，東松島市等）	35	36
気仙沼管内（気仙沼市，南三陸町）	19	20
塩釜支所管内（塩竈市，多賀城市等）	26	31
岩沼支所管内（名取市，岩沼市等）	42	47

回答者について①

□ 回答者の内訳

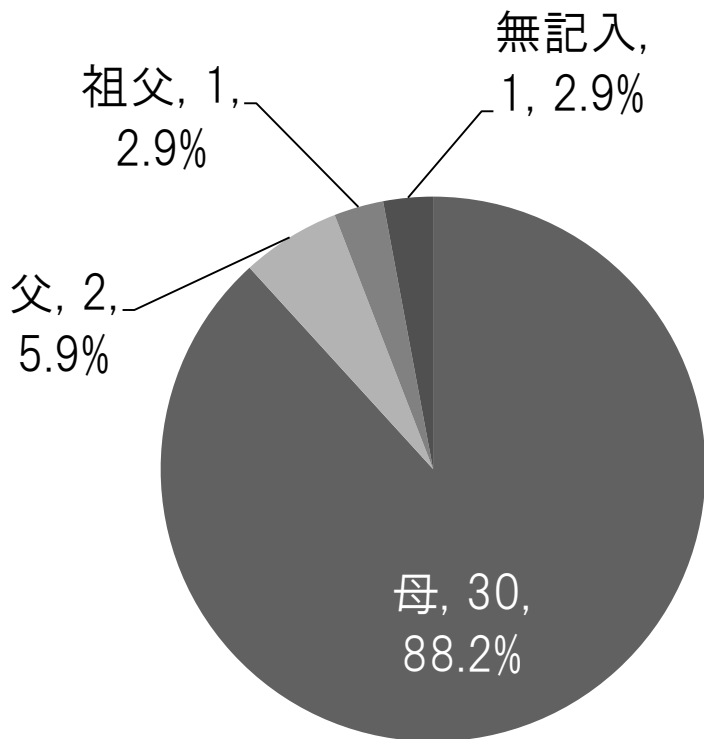


図2 アンケート記入者

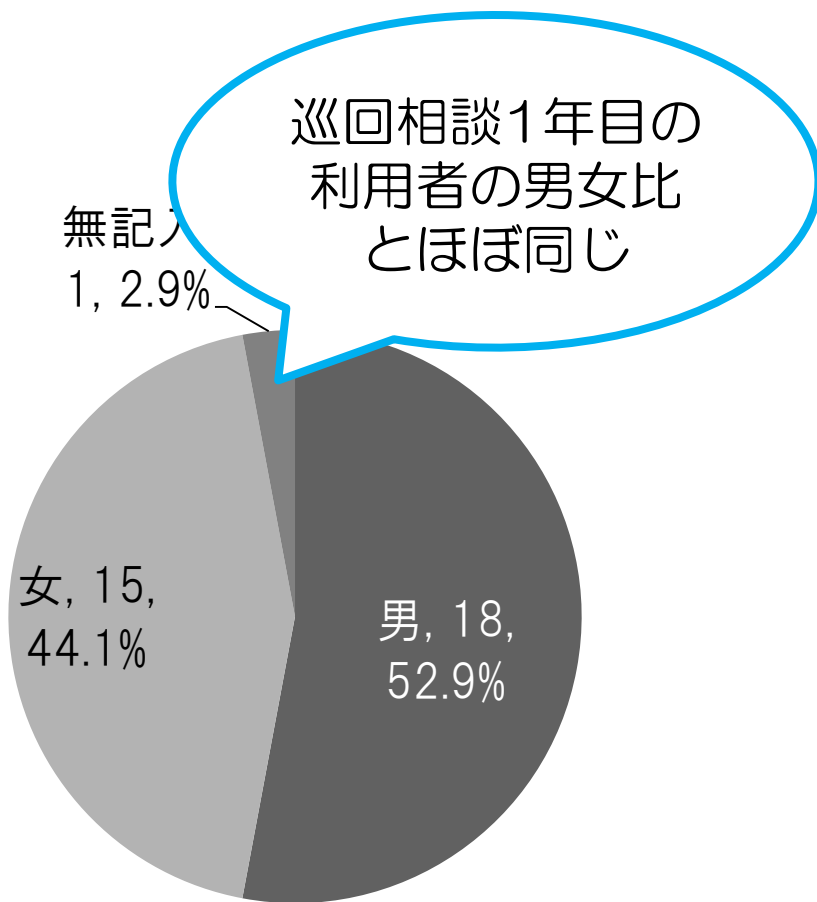


図3 回答事例（子ども）の性別

回答者について②-1

□ 学年分布（アンケート調査時）

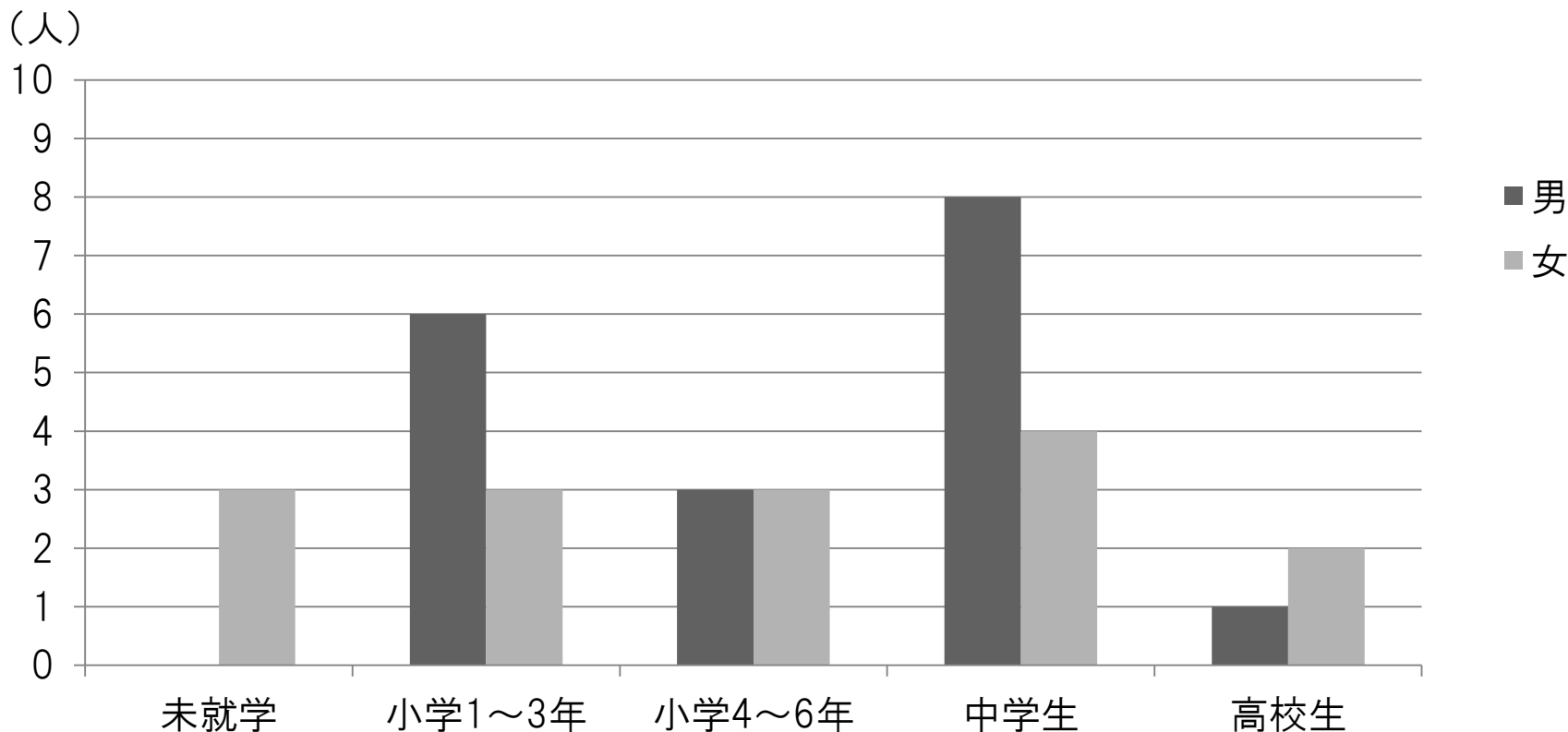


図4 アンケート調査時の子どもの学年分布（n=32，不明1件除く）

回答者について②-2

□ 学年分布（巡回相談時※）

※調査時の年齢から4を引いて算出

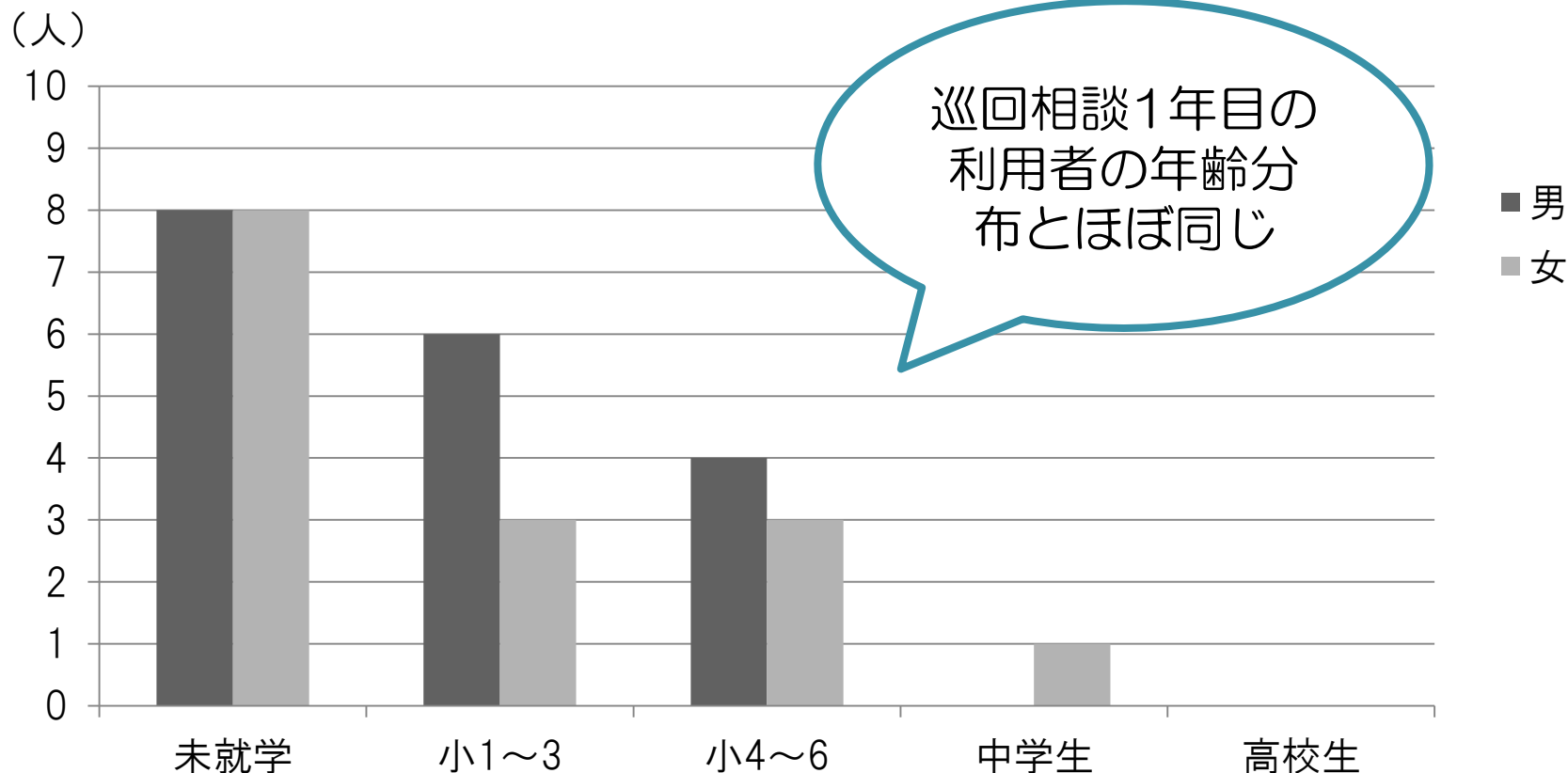


図5 巡回相談当時の子どもの学年分布（n=33，不明1件除く）

震災後の環境の変化①

□ 転園・転校

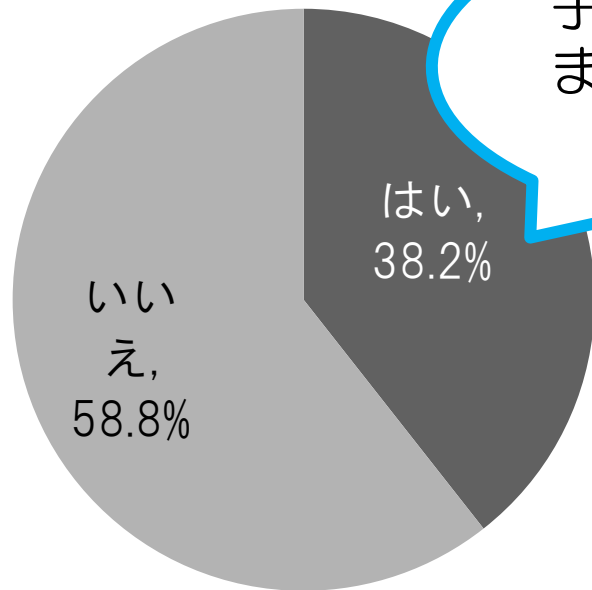


図6 「震災後に転園・転校
しましたか」

□ 住まいの変化

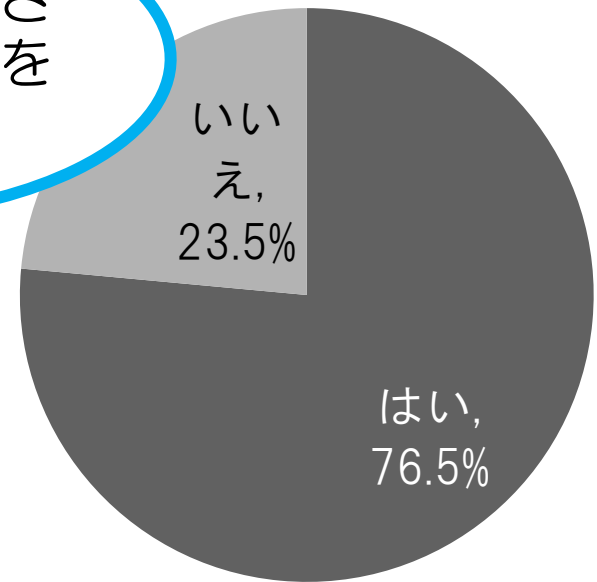


図7 「震災後、お住まいの
変化はありましたか」

子ども達はさまざま
な環境の変化を
経験していた

震災後の環境の変化②

□ 家族の仕事の変化

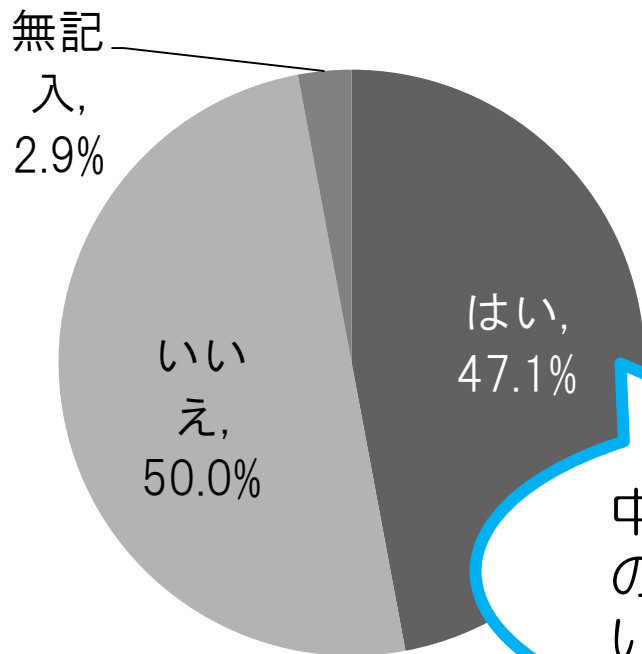


図8 「震災後、お仕事に変化はありましたか」

□ 家族構成の変化

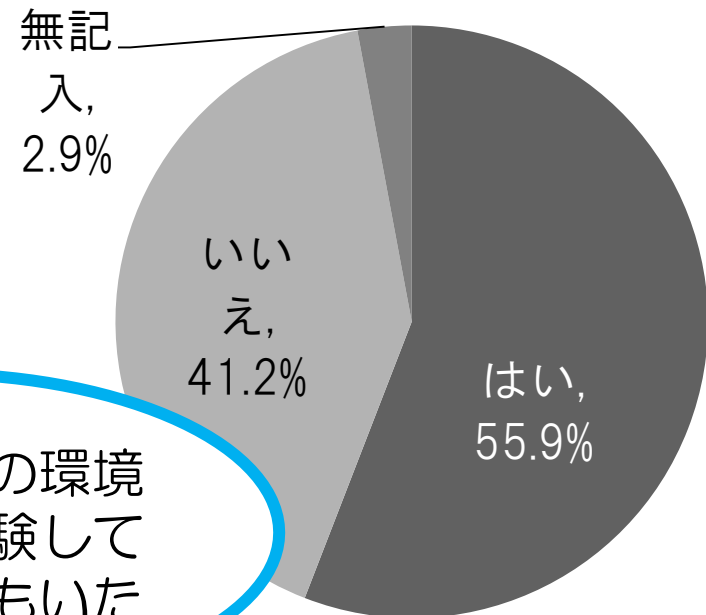


図9 「震災後、家族構成の変化はありましたか」

中には複数の環境の変化を経験していた子どももいた

日常生活について①

□ 睡眠

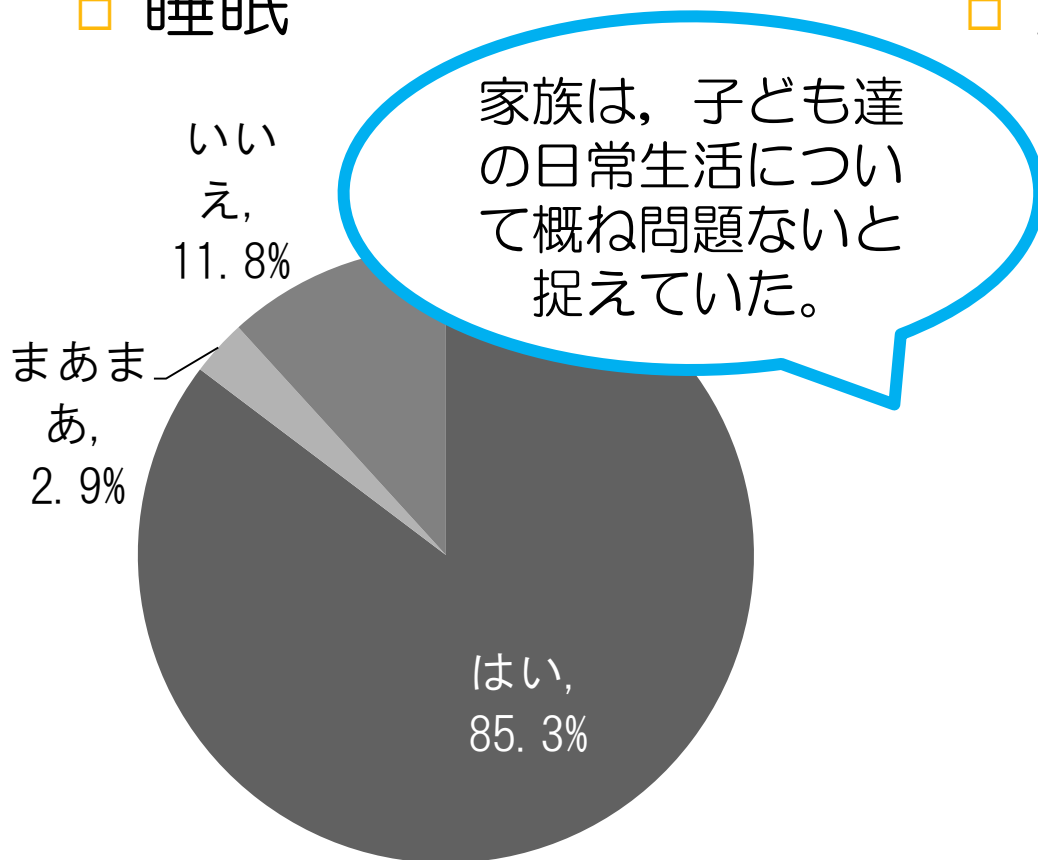


図10 「よく眠れていますか」

□ 食欲

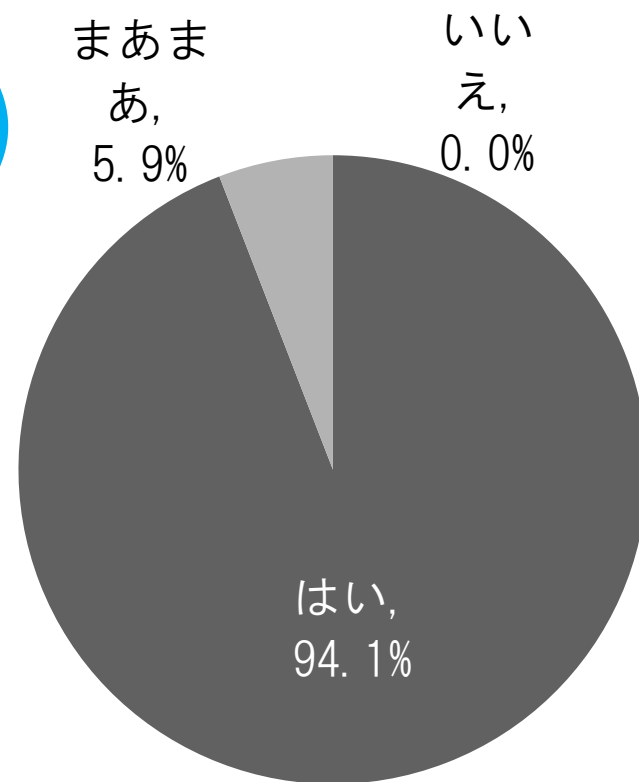


図11 「食欲はありますか」

日常生活について②

□ 生活リズム

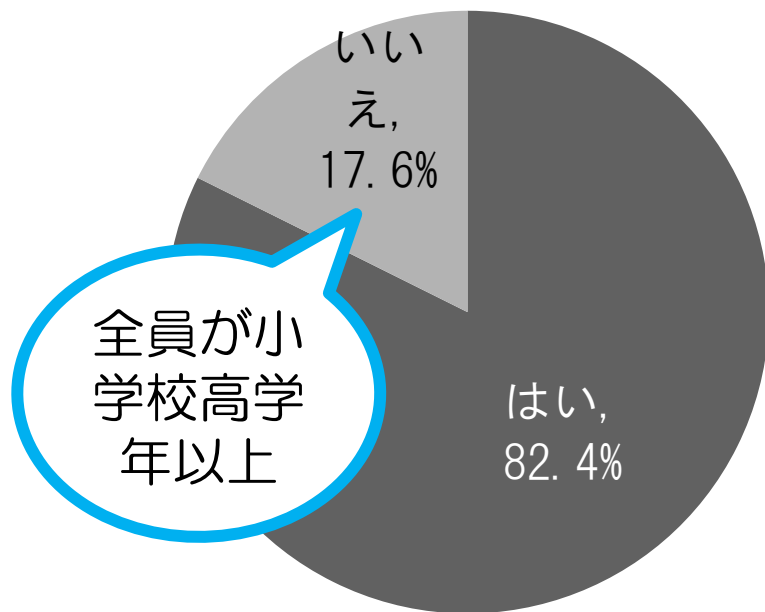


図12 「生活リズムは規則的ですか」

□ 体調

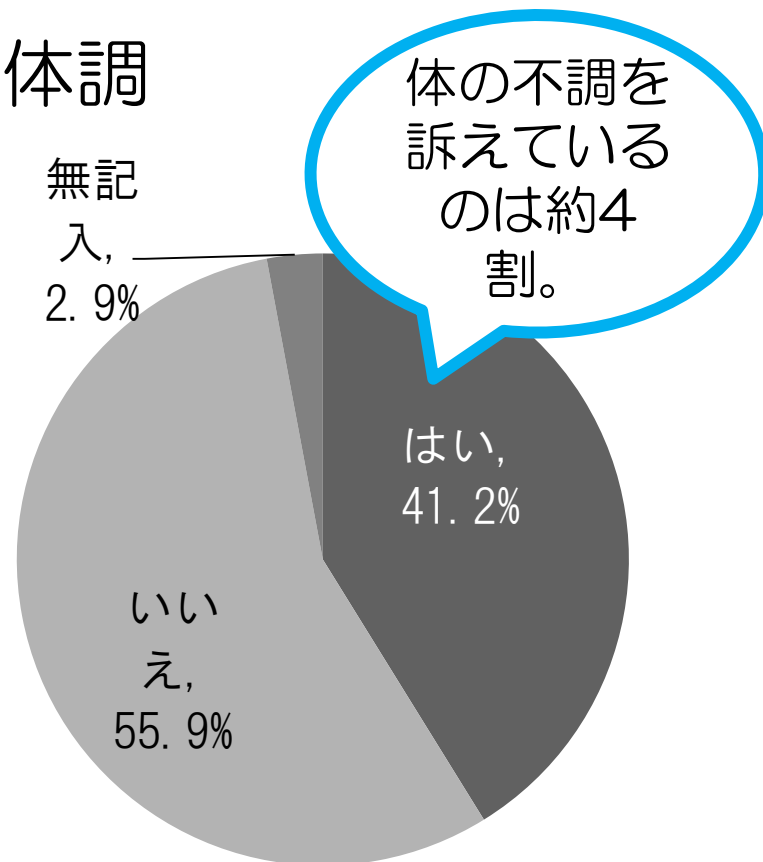


図13 「体の不調をよく訴えますか」

日常生活について③

中学生以上で室内での活動が中心になっている。

□ 家での過ごし方について

- テレビ, おままごと, 外遊び (未就学)
- 公園・外で遊ぶ, テレビ, ゲーム, 読書 (本, マンガ), 兄弟姉妹と遊ぶ, DVD, 自転車, ピアノ, 宿題, 工作 (物づくり), 身体を動かす (野球等), お絵かき (小学生)
- テレビ, ゲーム, パソコン, 携帯 (スマホ), 読書 (本, マンガ), 音楽を聴く, 勉強を頑張っている, 庭仕事, 小説? を書く (中学生)
- 音楽を聴く, LINEのやり取り, 携帯 (スマホ), 絵 (マンガ) を描く (高校生)
- 寝る, テレビ (不明)

□ 運動について

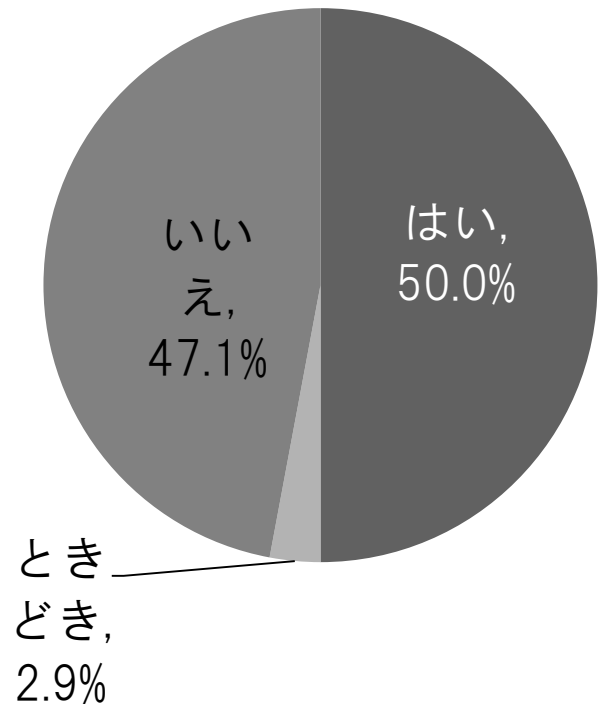


図10 「園や学校以外で運動の機会がありますか」

集団生活について①

□ 友人関係について

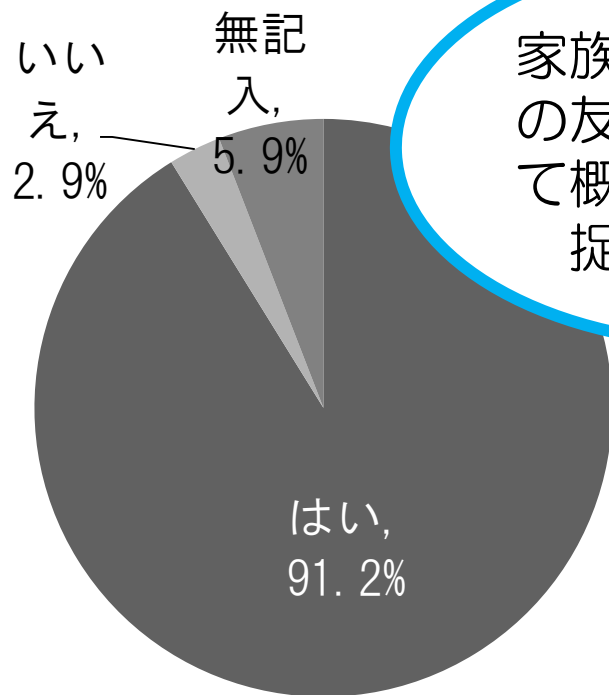


図14 「仲のいい友達はいますか」

家族は、子ども達の友人関係について概ね問題ないと捉えていた。

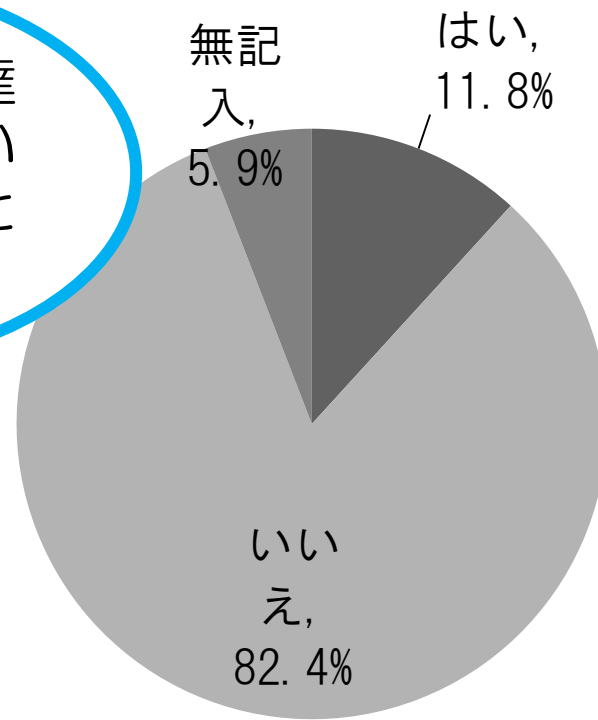


図15 「友達とのトラブルはありますか」

集団生活について②

□ 登校・登園の状況

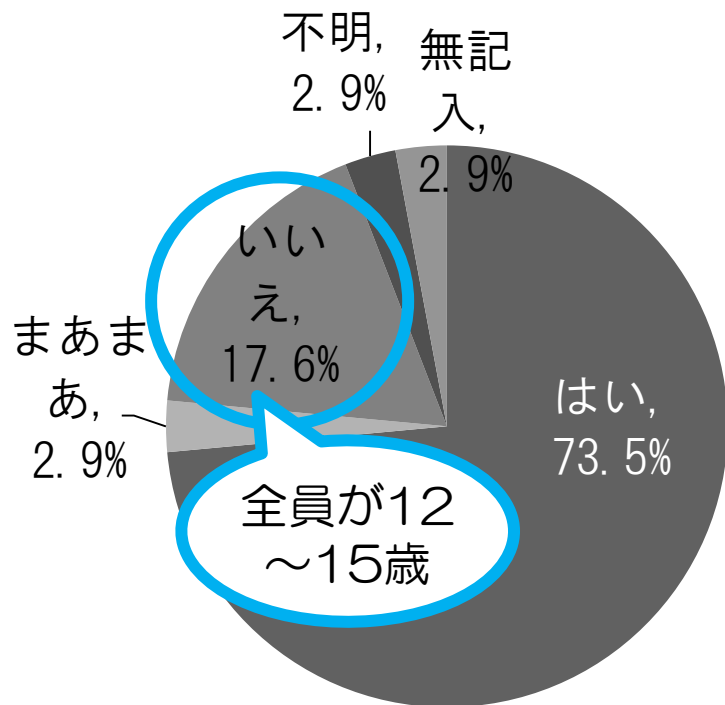


図16 「園や学校は休まず登校していますか」

□ 集中や学習の状況

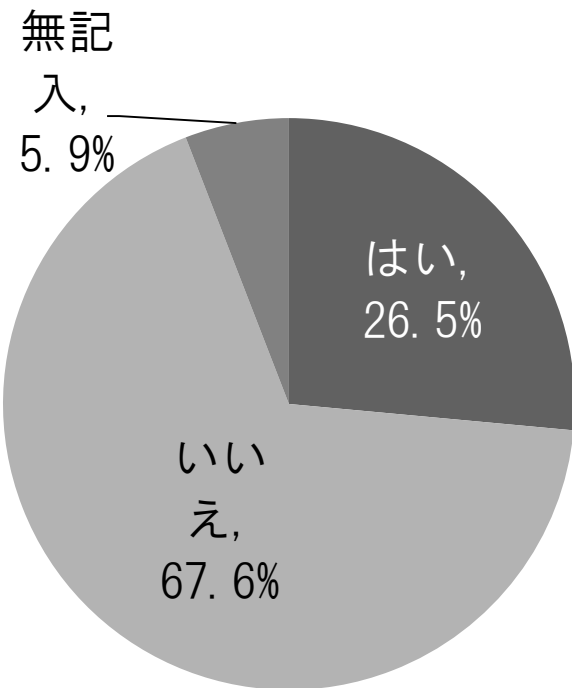


図17 「集中困難や成績の低下はありますか」

子どもの症状①ー1

□ 巡回相談時の子どもの症状

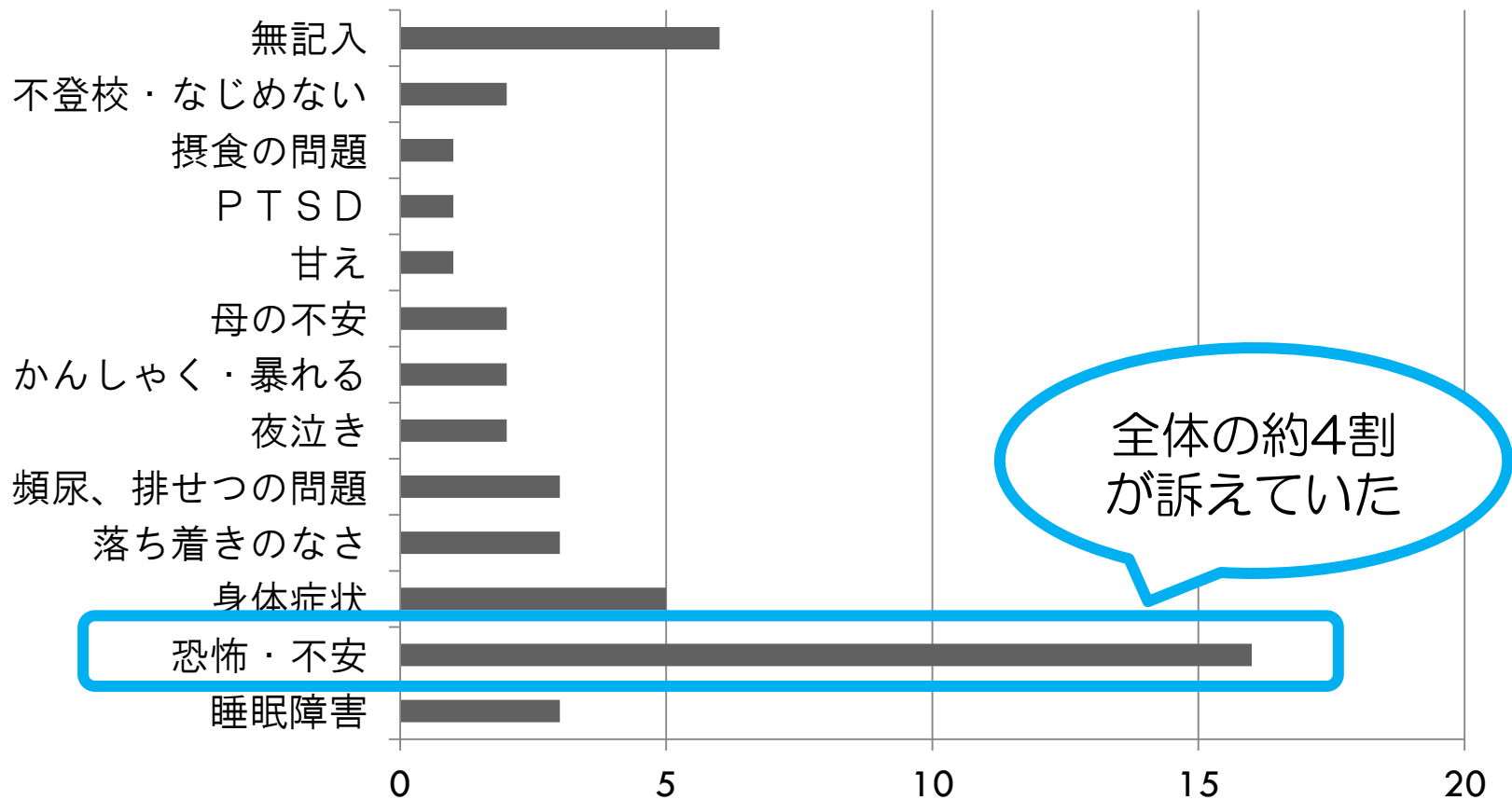


図18 巡回相談時の症状

子どもの症状①ー2

□ 巡回相談時の症状は改善しているか？

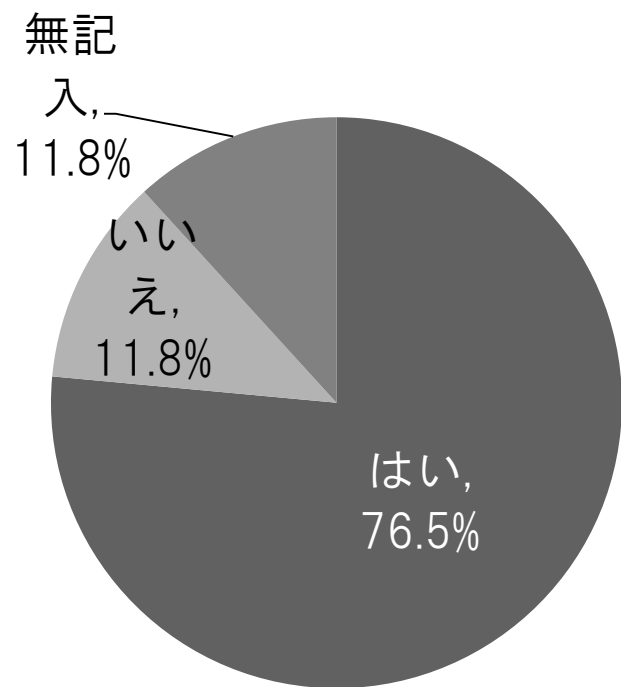


図19 「巡回相談利用時の症状は改善していますか」

- 「はい」の記述
 - 改善しているものとしていないものがある
 - 改善しているように思われる
- 「いいえ」の記述
 - 地震や津波に対してとても敏感で不安がる
 - 車の音は少し嫌がる時がある
 - 大きな声が怖いときは耳をふさいでいる
 - (ほとんどなくなったが) 今年の5月くらいからまた症状が出てきた

子どもの症状②-1

□ 現在の気になる精神症状

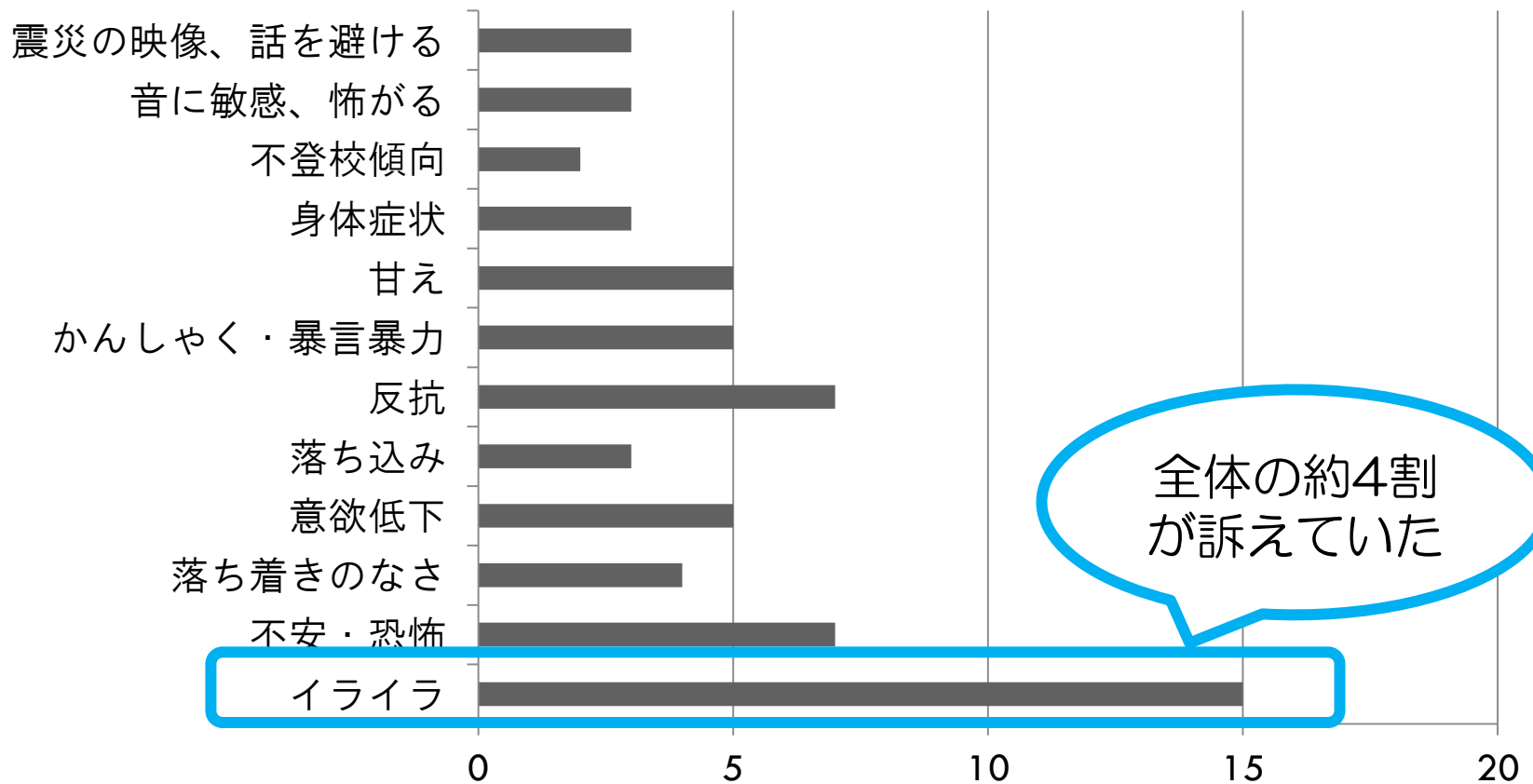


図20 現在の気になる精神症状

子どもの症状②-2

- 不調や気になることについて相談しているか

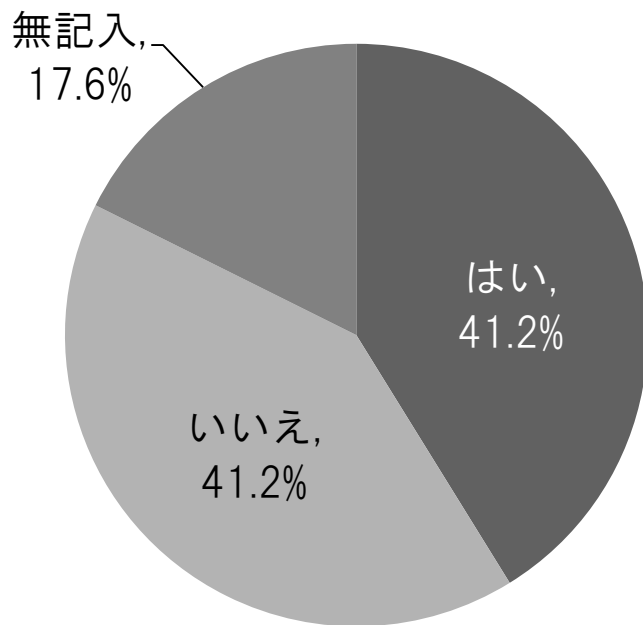


図21 「不調や気になることについて相談していますか」

- 不調や気になることについての相談希望の有無

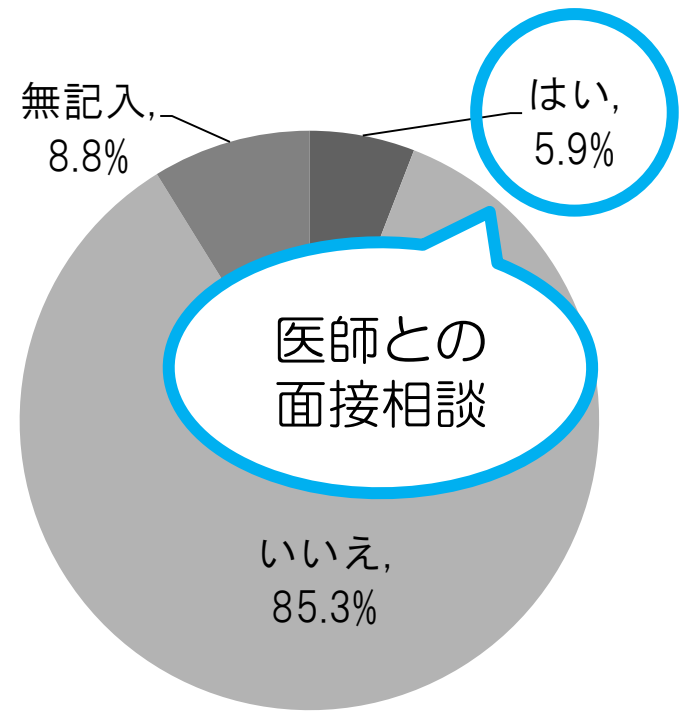


図22 「不調や気になることについて、相談希望はありますか」

子どもの症状③ー1

調査時の精神状態について（子ども自身の回答）

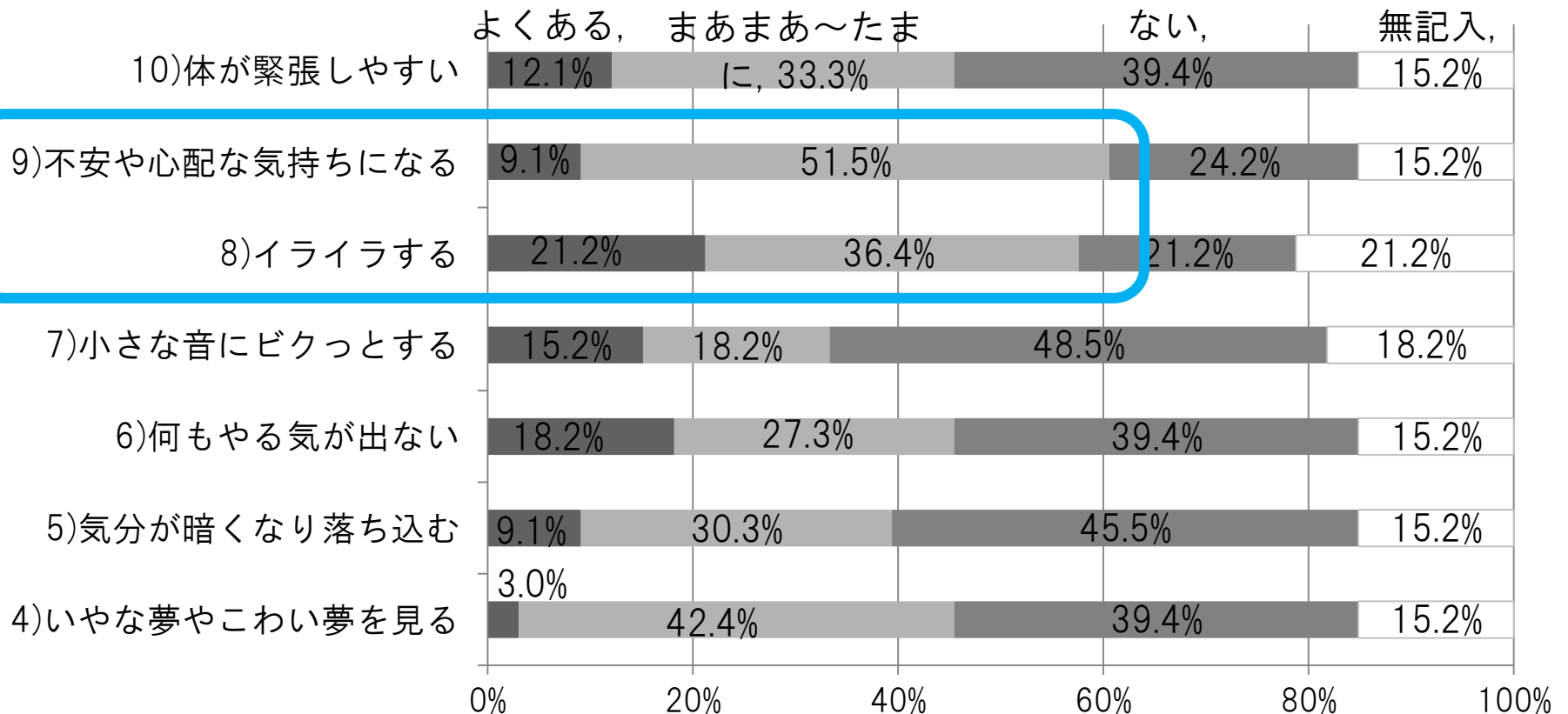


図23 現在の状態について（子ども自身の回答）①

子どもの症状③ー2

□ 外傷体験に関連する質問（子ども自身の回答）

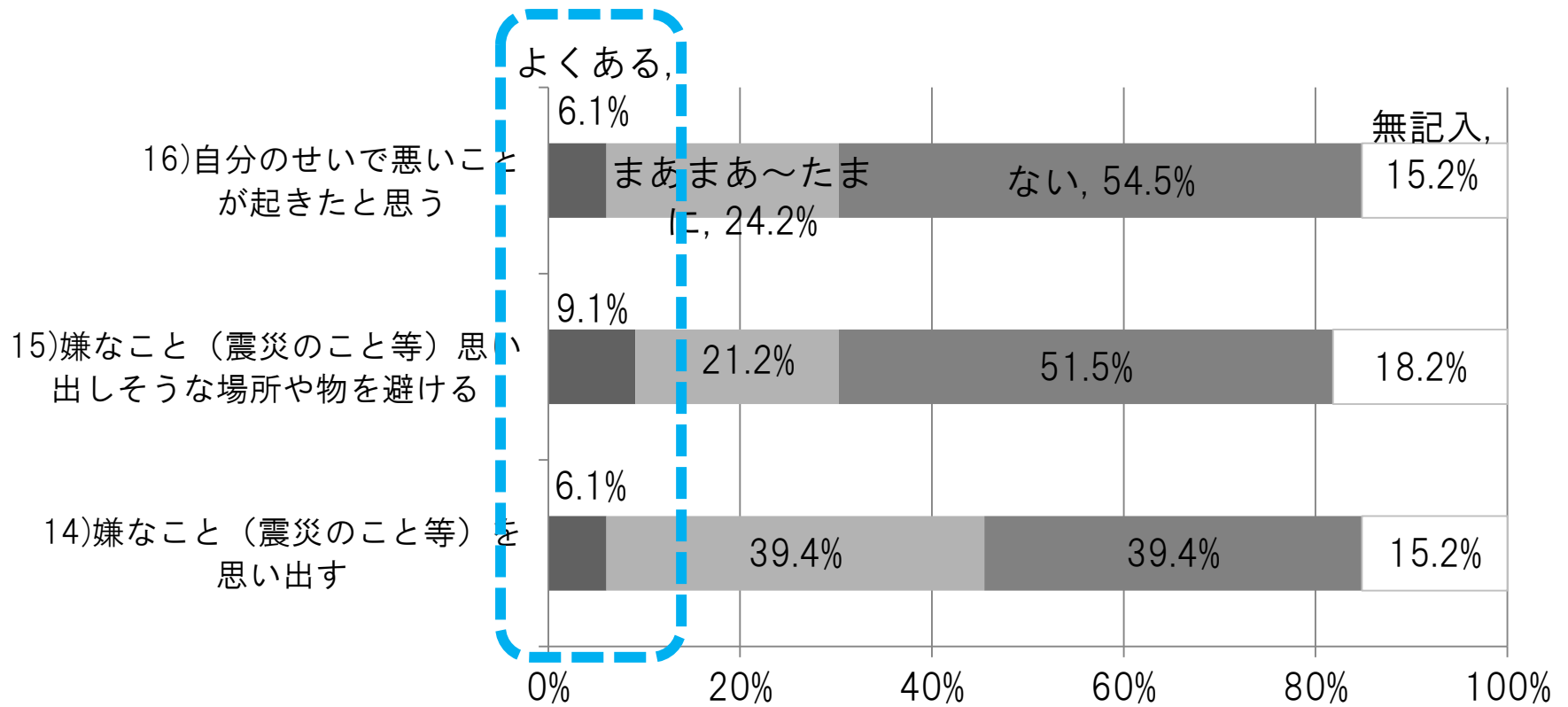


図24 現在の状態について（子ども自身の回答）②

ケアチームへの評価①ー1

□ ケアチームの巡回相談に対する評価

表3 巡回相談の評価

「子どもの心のケアチーム巡回相談を利用されていかがでしたか」

良かった	24人(70.6%)
どちらかといえば良かった	5人(14.7%)
どちらかといえば良くなかった	2人(5.9%)
良くなかった	1人(2.9%)
その他（利用していない）	1人(2.9%)
無記入	1人(2.9%)

ケアチームへの評価②-1

□ 巡回相談利用時の感想

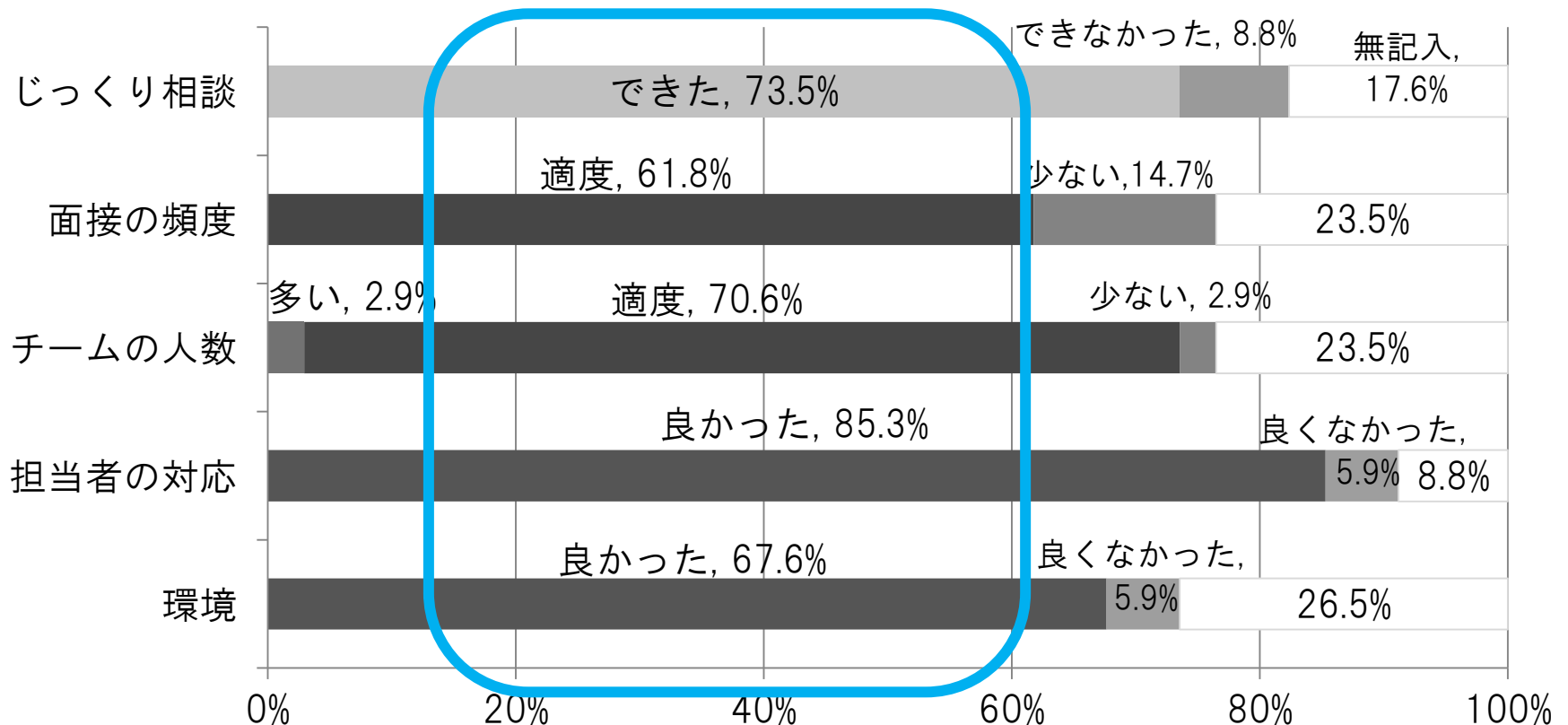


図25 巡回相談利用時の感想（1）

ケアチームへの評価②-2

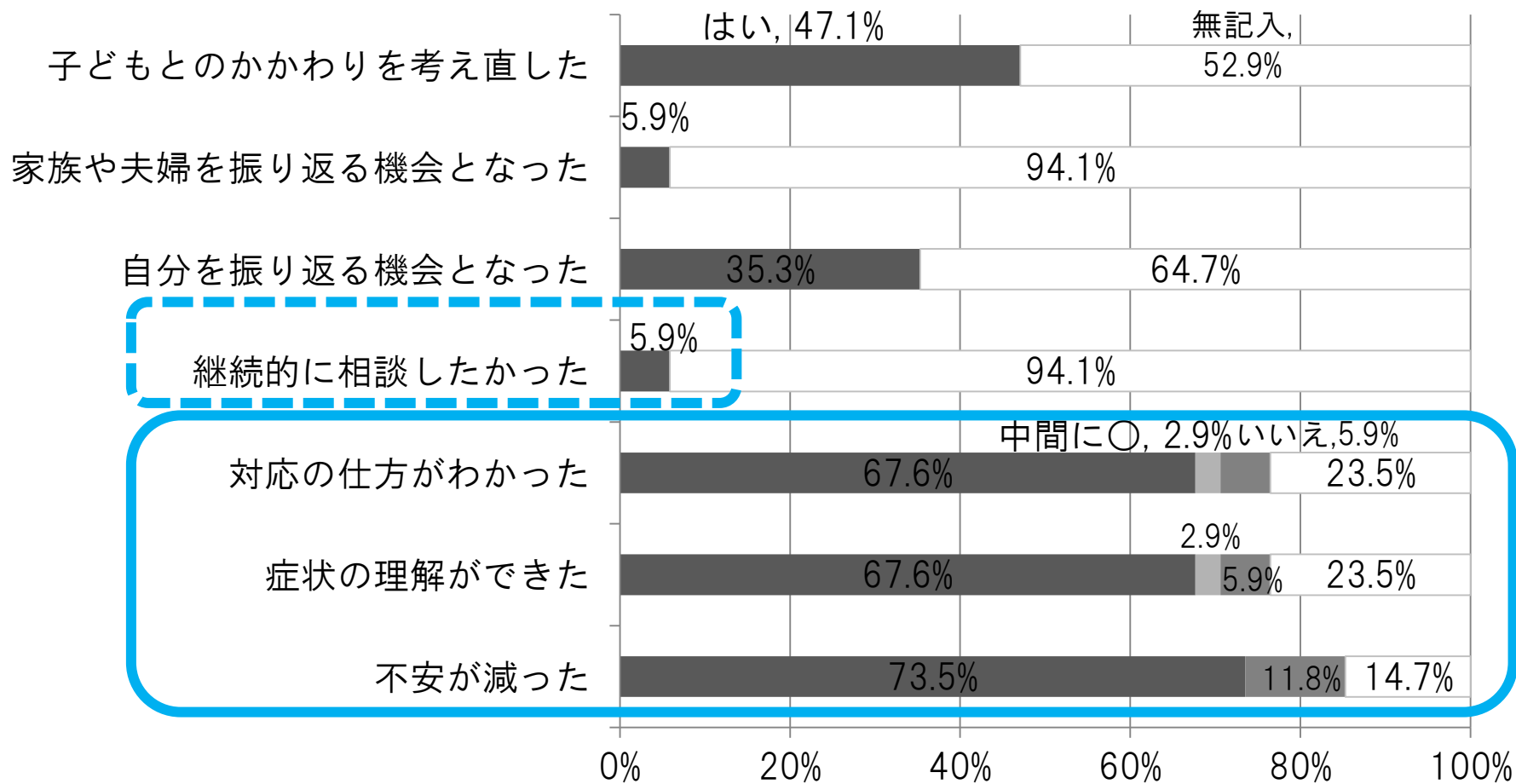


図26 巡回相談利用時の感想 (2)

まとめ・考察

- 約9割の子どもは改善している一方、約1割の子どもには症状が残存してた。
- 今も外傷体験に深く関与する訴えを認める子どもが約1割いることがわかった。
- 現在の気になる精神症状として「イライラ」が約4割の子どもに認められた。
- 8～17歳の子どもの26.5%が「集中困難や成績低下」を、41.2%が「体調不良」を訴えていた。
 - 不登校傾向を示す子どもは全員「集中困難や成績低下」，「体調不良」を訴えていた
- 当初予想していた，子どもの症状と環境の変化との関連は，今回の結果からは見出せなかった。

□ 巡回相談の成果・意義

- 症状の理解や子どもへの対応に役立つ

→保護者の不安を軽減

- 子どもを支える保護者の精神的安定に寄与する

→直接・間接的な震災後の子ども心の支援



□ 望まれる支援の構造

- 震災直後からの比較的**短期間に複数回**

- 保護者や本人を対象に

- 避難先の**近隣**で実施

- 震災から4年以上経過しての追跡調査であり，回収率が低かった。
 - ▣ 回収率が低く，十分な検討は困難であった。
 - ▣ 災害時の支援計画を検討する時点で，フォローアップも含めた見通しを立てておく必要がある

- 震災の問題が，日常の中に溶け込んでいる。
 - ▣ 震災に特化した訴えに限らず，「イライラ」，「成績低下や集中困難」，「体調不良」等，様々な症状にも注意が必要。
 - ▣ 家族機能や保護者の精神状態，母子関係等子どもを取り巻く環境も含めたアセスメントと見守りが必要。